

西暦 2024 年 5 月 23 日

2022年6月から2023年12月に産業医科大学病院を受診し、  
苦痛スクリーニングシート (Total Pain Screening Sheet; TPSS) を  
記載した患者さん及びご家族の方へのお知らせ

当院では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、通常の診療で得られた情報の記録に基づき実施する研究です。このような研究は、「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針（令和3年3月23日制定 令和3年6月30日施行）」により、対象となる患者さん及びご家族の一人おひとりから直接同意を得るのではなく、研究内容の情報を公開するとともに、参加拒否の機会を保障することとされています。この研究に関するお問い合わせ、また、ご自身及びご家族の診療情報が利用されることを了解されない場合は、以下の問い合わせ先にご連絡ください。利用の拒否を申し出られても何ら不利益を被ることはありません。

1. 研究課題名

当院で行われた苦痛スクリーニング (Total Pain Screening Sheet; TPSS) の  
回答分析および有用性の検討

2. 研究期間

2024年5月23日 ~2026年12月31日

3. 研究機関

産業医科大学

4. 研究責任者

産業医科大学病院 緩和ケアセンター 講師 白石 朝子

5. 研究の目的と意義

がん患者さん、およびその家族などが、がんと診断された時から身体的・精神心理的・社会的な苦痛など全人的な苦痛に対して適切に緩和ケアを受けられるよう、当院などのがん診療連携拠点病院では、苦痛のスクリーニングを行うことが求められています。当院では苦痛のスクリーニングに「生活のしやすさに関する質問票【浜松地域 改訂版】」を独自に改訂した Total Pain Screening Sheet (以下、TPSS) という自記式質問票を使用しています。

スクリーニングの実施率を上げることは多くの患者さんの苦痛を拾い上げる効果に直接繋がると考えますが、スクリーニングを実施するのみでは患者さんの症状改

善までには繋がらず、スクリーニング結果の分析と、スクリーニング後の対応の評価・分析まで実施し、よりよい緩和ケアの提供体制について考えることが重要です。

当院におけるスクリーニング結果の回答分析および有用性の検討を行うことは当院のがん患者さんの更なるニーズ評価と緩和ケア提供体制のレベルアップに繋がり、苦痛スクリーニングの有用性に関する報告の一助となると考えます。

#### [目的]

この研究は、既に当院で取得された患者さんの TPSS の結果の回答を分析し、スクリーニングの有用性の検討を行うことを主な目的とします。

- ① TPSS の回答結果分析を通して、当院のがん患者さんにおける苦痛の特徴および緩和ケアニーズの評価を行います。
- ② TPSS の結果解析に基づき、当院で適切な緩和ケア提供体制がなされているか（病棟単位での緩和ケアニーズへの対応率、緩和ケアチームへの紹介率）を評価します。

#### [意義]

これらの検討を行うことで当院のがん患者さんの更なるニーズ評価と緩和ケア提供体制のレベルアップに繋がり、苦痛スクリーニングの有用性に関する報告の一助となると考えます。

## 6. 研究の方法

産業医科大学病院で研究対象期間（2022年6月～2023年12月）において収集された TPSS の結果を分析し、有用性を検討します。

## 7. 個人情報の取り扱い

個人情報の公開はいたしません。データの解析の際には対象者を特定できないように氏名などの個人情報を全て加工（匿名化）します。

院内の規定に従い、研究の終了報告から5年が経過した日または研究成果公表から3年が経過した日のいずれか遅い期間までデータを保管します。データ保管期間終了後、または研究の中止後は直ちに試料・情報管理者が個人を特定できないような形で情報を復元できないよう消去・廃棄します。

この研究への参加の拒否は自由です。研究への参加にご同意いただけない方は下記問い合わせ先にご連絡ください。研究対象から除外させていただきます。

## 8. 問い合わせ先

産業医科大学病院 緩和ケアセンター 白石朝子 TEL 093-603-1611

## 9. その他

この研究への参加に対する直接的な利益はありません。また、費用の負担や謝礼もありません。この研究は一切の利益相反はなく、産業医科大学利益相反委員会の承認を得ており、公正性を保ちます。